

フェイスブックで知った 地元の伝統行事

—農的社会デザイン研究所代表・蔦谷栄—



蔦谷 栄一 (つたや えいいち)

東北大学経済学部卒業。1971年農林中央金庫入行、熊本支店長、農業部副部長を経て、96年7月農林中金総合研究所基礎研究部長。常務取締役、特別理事などを経て、現在、農的社会デザイン研究所代表。

新型コロナウイルスとは関係なしであるが、昨年の春ごろからフェイスブックを始めた。もうホームページにアクセスしてもらう時代ではない、見てもらえるような情報発信が不可避の時代だ、という某氏からの強力な“説得”を受けて渋々、スタートさせたものである。

始めてみて功罪いろいろあるものの、現在では功が勝っているというのが率直なところ。大いに楽しんでいる一つが、地元の伝統行事の情報に触れることで、こうした機会が格段に増えた。筆者は仙台市出身で西東京市に住む“外来者”であるが、「西東京アグリ夢クラブ」の同じメンバーであるニクラファームの新倉大次郎さんと「友達」でつながることに。新倉さんは、西武新宿線田無駅近くで、ハーブを中心に年間150～200種類の野菜を栽培・出荷する農業者だ。

新倉さんは四代目とのことではあるが、分家してからの四代目ということで、新倉家自体は田無で最も古い家の一つ。田無神社の氏子、総持寺の檀家（だんか）でもある。その新倉さんはフェイスブックでハーブ栽培の様子に加えて、身の回りの伝統行事に触れることが多く、写真とコメントで“歳時記”を発信。廃れていく伝統行事も少なくない中、新倉家で守っている時々行事や地域の営み等についての報告は大変貴重な地域情報となっており、たくさんの発見と驚きをいただいている。



上からエベスコの朝食、昼食、夕食（いずれもニクラファームのフェイスブックより）

ここで通年での紹介は難しいが、10月以降正月までの主なものを取り上げてみると、10月10～11日、田無神社例大祭、田無神社遷宮三百五十年大祭。11月15日、酉（とり）の市、二の酉、三の酉、荒神様の中帰り。20日、エベスコ（恵比寿講）。23日、新嘗祭。12月1日、田無神社の一楽萬開のお札と御朱印。21日、冬至祭。30日、大祓人形の日、正月飾り。31日、年越しそば、1月1日、田無神社初詣、総持寺初参り、お正月の灯り上げ、といった具合。毎週のように行事が入っており、仕事をしながらこれらを守っていくのは大変であろうが、豊かな文化を感じさせられる。

新倉さんのお宅には、いわゆる神棚本体の他に、恵比寿様、荒神様用と三つの神棚があって、それぞれに飾りつけや灯りがともされることになる。またお供えもささげられ、エベスコの時のメニューは、朝は赤飯、けんちん汁、尾頭付きの魚。副食とともに昼はうどん、夜は白米と主食は変わる。

特にうれしかったのは地元でも新嘗祭が行われていることだ。ご承知のようにコメの収穫を祝い、翌年の豊穰（ほうじょう）を祈るものである。田無神社に加えて保谷三社とされる尉殿神社、天神社、そしてわが家に比較的近い阿波洲神社で、同じ日に時間をずらしながらおのおのの神社で行われているという。食文化はかろうじてではあるが今も息づいており、伝統行事を後世につないでいきたいものだ。